Focus 1
英語教育改革の先を見据えて

進研ゼミ 英語4技能教材の開発

子どもたち一人ひとりに“使える”英語が身に付く教材を

本プロジェクトメンバーのインタビュー記事を掲載しています
https://www.benesse-hd.co.jp/ja/ir/library/ar/2019/focus/index.html

家庭学習支援の知見とノウハウで英語教育の変化に対応する教材をつくる

教育は、子どもたちが将来社会で活躍していくのに必要な力を育てるものです。グローバル化や技術革新が急速に進む社会に生きる子どもたちには、今まで以上に主体的に考え、他者と協働しながら未来を切り拓いていく力が求められており、これを後押しするものとして教育・入試改革も進められています。

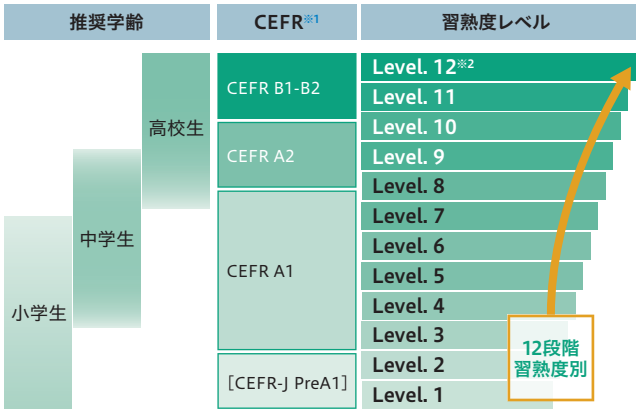
こうした方向性が重視されるなか、英語教育もドラスティックに変わります。2021年度から始まる大学入試改革では、これまでの「読む」「書く」だけでなく、「聞く」「話す」を加えた4つの技能が総合的に評価されます。日本語と同じように英語を使い、海外の人々としっかりコミュニケーションをとれる人材が求められているのです。

ベネッセが2019年4月にリリースした「英語4技能習熟度別トレーニング」は、進研ゼミの受講者を対象に、受講費内で継続的に提供するデジタル学習サービスです。ベネッセは、進研ゼミを通じて自学自習の要である家庭学習を長く支援してきました。英語教育の変化に対しては、保護者の方から不安や戸惑いの声も聞かれていますが、そうした声に応えるために英語4技能トレーニングの開発に取り組んできました。

受講者一人ひとりに寄りそい着実な習熟度向上をサポート

英語4技能トレーニングは、技能レベルの異なる受講者一人ひとりが「今できる」レベルからステップアップできるように設計しています。その最大の特長は、従来の学齢別での教材ではなく、英語技能の習熟度に応じて12段階に区分してサービスを提供する点です。診断テストをもとに受講者一人ひとりの英語レベルを診断し、各自に合わせたレッスンを提案しています。日本の小学校では、2020年から小学3・4年生で英語に親しむ「外国語活動」がスタートし、小学5・6年生で「教科」としての英語の授業が始まります。

12段階習熟度別トレーニングフロー



※1 外国語の運用能力を測定する欧州の規格
※2 Level.12は2020年に向けて開発中

「教科」としての英語には、成績がつくようになります。現時点ではこれまでの学習機会などによって同じ学年の子どもでも、英語力にはかなりの差異があります。そのため、「今できる」レベルから始められる習熟度別の教材は、英語力を効果的に伸長させるツールとして期待されています。

さらに、“アウトプット重視”の教材であることも特長です。講師との双方向のコミュニケーションを図れるようにしたことで、思いや考えを整理して自分の言葉で発信することを促しています。

また、受講者が着実に英語力を身に付けられる学習サイクルを設計。診断テストの結果から自らの到達目標を設定、いつ、どのように教材を使えばいいか、といったところまで細やかな提案も行い、着実に英語を身に付けられる学習サイクルとして支えています。進捗や習熟度によってはより最適なレベルを再度判断してフォローするなど、受講者が一人でつまずかないような工夫をしています。

英語を4技能で学べる教材は他社でも提供していますが、このように小学生から高校生まで一貫したサービスで受講者一人ひとりを継続的に支援できるのはベネッセならではの大きな強みです。これまで蓄積してきた教材開発や、学力のアセスメントに関するノウハウ・知見を融合して、受講者の学習をきめ細やかに支えています。

リリース直後から大きな反響 受講者の活用も着実に進む

リリース直後から英語4技能トレーニングは大きな反響をいただいています。また、利用動向データの蓄積も進んでいますが、当初の想定以上に実際の活用が進んでいることもわかっています。

例えば、小学校1年生の起動率は50%超となっています。英語の必修化を控え、多くの保護者の方から支持を得られている結果であると分析しています。

一方で、受講者数をさらに拡大していくために、取り組むべき課題も見えてきています。中高生の受講者からは、英語4技能検定対策や受験対策として活用したいという要望が寄せられていることから、検定のタイミングに合わせて、検定特有の形式に対応できるよう外国人講師によるマンツーマンのオンラインレッスンを提供していきます。また、診断テストについて、過去のデータを分析し、少ない設問でも精度の高い判定ができるよう改良を進めています。

真に役立つ英語教材として 進化を図っていくために

ベネッセは、進研ゼミや年間90万回以上の英会話のオンラインレッスンを提供し、受講者の回答データや、外国人講師との対話データをはじめ、膨大な学習履歴を蓄積しています。こうしたデータと顧客基盤も活かして、さらなる進化を図っていきます。段階的に、AIとの対話による学習なども導入していきます。英語の発話能力を伸ばしたくても、外国人講師との会話にハードルを感じる子どもたちもいます。そこで例えば、英語を話すAIのキャラクターがその受講者に合った話題を提供することで、英語での会話への抵抗感をなくすこともできます。

教材は、検定や入試でのスコアアップ対策を一層充実させていきますが、あくまでそれは一面です。「子どもたちの未来に役立つ力を育む」。今後もベネッセは、その強い信念のもと、受講者や保護者の方の声に耳を傾けながら、蓄積される学習データを活用して、すべての受講者が使える英語を身に付ける教材として英語4技能学習を進化させていきます。

チェックテストによって習熟度レベルを診断

検定別に目標設定し、計画的な学習を支援

有料で外国人講師による個別指導を受けられるオンラインスピーキングを提供